

2021年2月2日

各位

株式会社スプリックス

---

世界 11 ヶ国 22,000 人の子ども・保護者を対象に、基礎学力に関する調査を実施  
子どもの基礎学力を把握している日本の保護者の割合は 6 割未満と 11 ヶ国中最下位

---

株式会社スプリックス（本部：東京都豊島区／代表取締役社長：常石博之）が運営するスプリックス基礎学力研究所は、グローバルにおける日本の教育実態を把握すべく、世界 11 ヶ国において子ども・保護者を対象に学習に関する「意識調査」、および基礎学力を測る「学力調査」を実施いたしました。各国 1,000 名ずつ、合計 22,000 名の子ども・保護者へのリサーチ結果から得られたデータを全 4 回にわたり公表しています。さらに、スプリックス基礎学力研究所公式 Twitter (@SprixBasri)、公式 Facebook にて、一部の調査結果に加え、補足データや最新情報も併せて掲載しております。

第 2 回の調査では、日本の保護者は教育費も少なく、子どもの学習に関与しないのに他力も頼らないという矛盾状態が明らかになりました。第 3 回目となる今回は、日本の保護者は、学力の「評価」が大切と認識しながらも、子どもの基礎学力のレベルを把握していない現状が明らかとなりました。

当社では上記課題を踏まえ、国際基礎学力検定「TOFAS」により基礎学力を客観的に評価し、日本だけでなく国際レベルで把握を行えるようにすることで、子どもたちの学力向上を目指します。

### ★第 3 回：調査結果ピックアップ

#### ① 基礎学力を把握している日本の保護者の割合は 6 割未満と 11 ヶ国中最下位

学校のテスト結果への信頼度も最下位で、テスト結果の認識度が低いことも明らかに

#### ② 子どもが勉強するために必要な要素は

「定期的な学力レベル評価」「身近な目標」「勉強したことへの褒め」が世界共通

#### ③ 一方で日本の保護者が実際に「勉強したことを褒める」割合は 11 ヶ国中最下位

日本国内の学力上位者の保護者ほど、定期的な学力評価を重視

### ※調査概要

調査地域	以下の 11 ヶ国 日本・アメリカ・中国・インド・イギリス・フランス・ポーランド・タイ・ インドネシア・マレーシア・ミャンマー
調査対象	子ども：6 歳～15 歳（各国 1,000 名・11 ヶ国の 11,000 名） 保護者：上記子どもの保護者（各国 1,000 名・11 ヶ国の 11,000 名）
調査手法	インターネット調査
調査内容	「意識調査」：子ども、保護者を対象に実施した学習に関するアンケート 「学力調査」：子どもを対象に実施した 50 問の計算に関する基礎的なテスト
実施期間	2020 年 8 月～9 月

### 本件に関する問い合わせ先

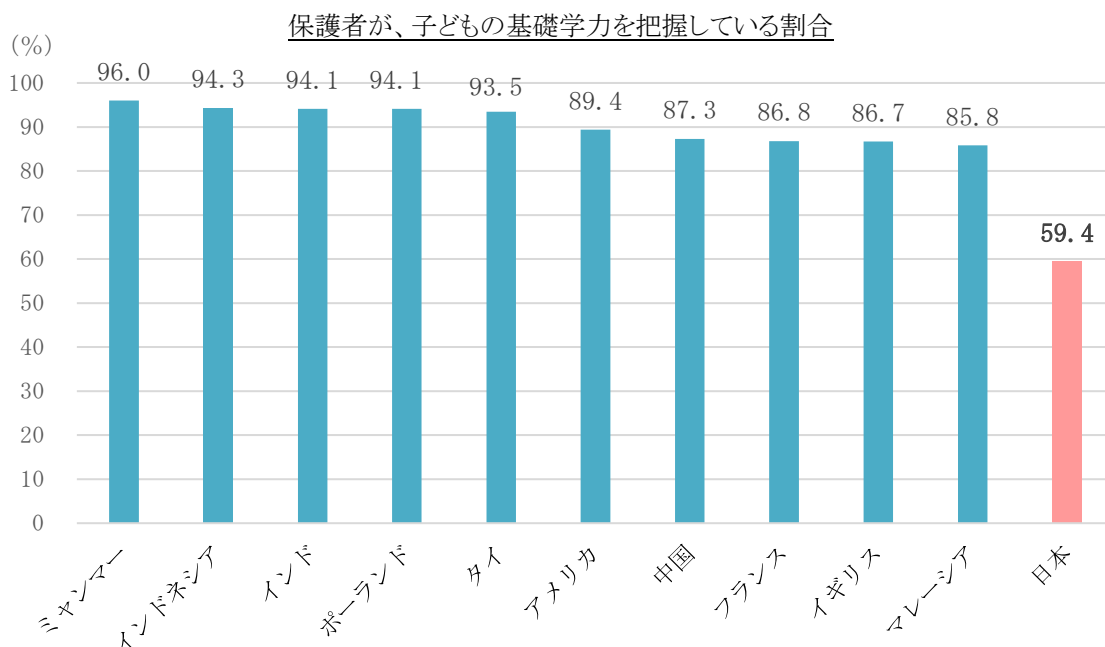
株式会社スプリックス

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 1-11-1 メトロポリタンプラザビル 12F

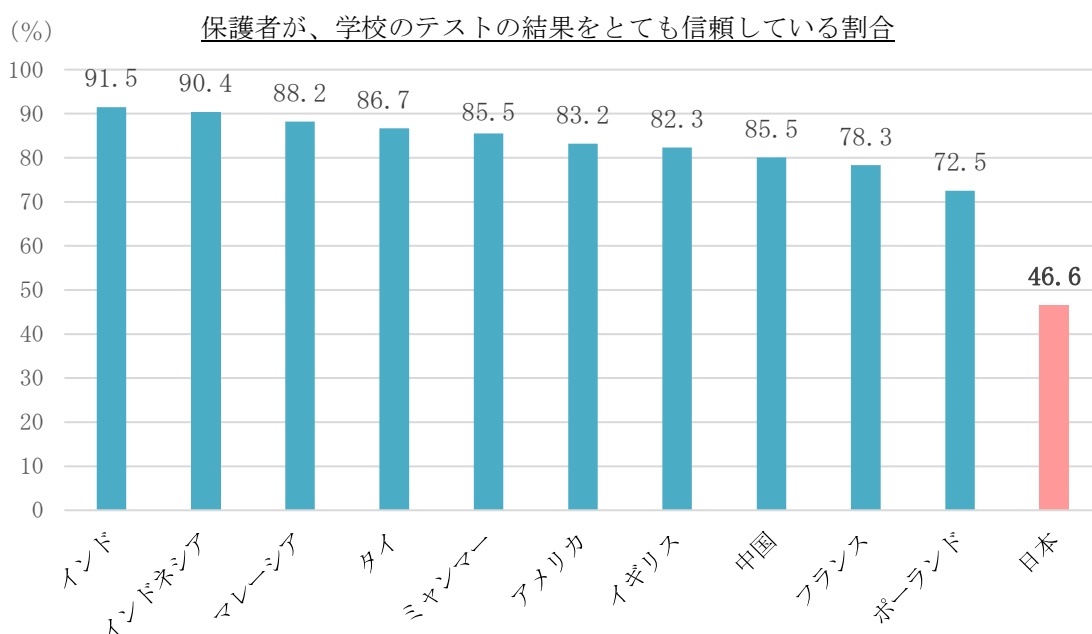
TEL：03-5927-1681 eMail：info@sprix.jp

### ① 基礎学力を把握している日本の保護者の割合は6割未満と11カ国中最下位

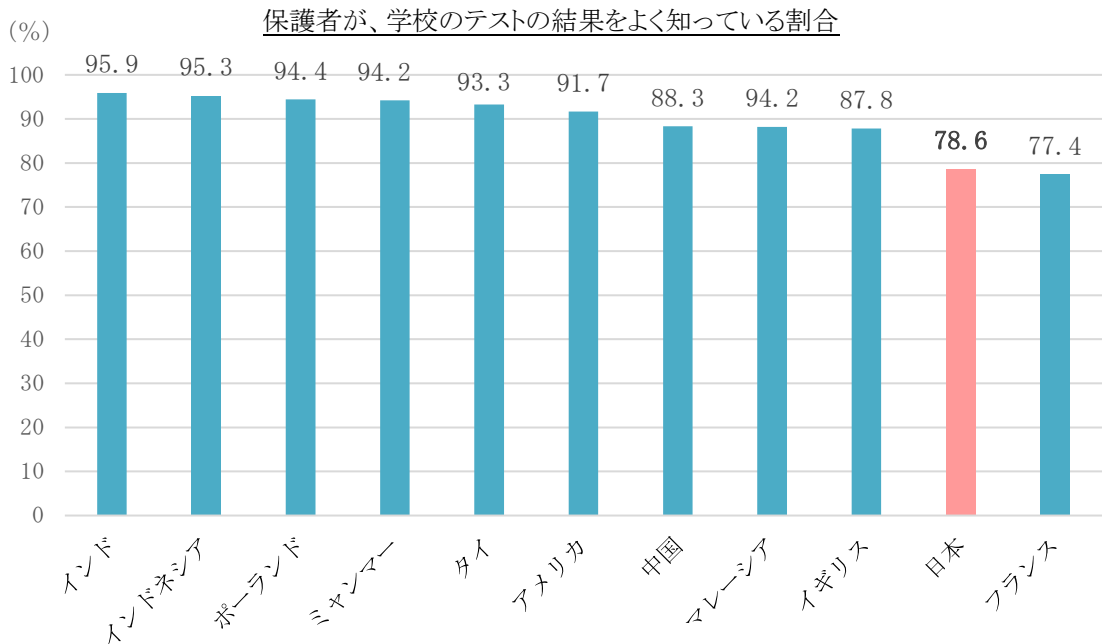
学校のテスト結果への信頼度も最下位で、テスト結果の認識度が低いことも明らかに子どもの基礎学力を把握している、と回答した保護者の割合は、日本が11カ国中最下位。他国では8割以上である一方で、日本は6割未満しか把握していない実態が明らかに。学習への関与以前に、保護者が子どもの学力の現状を把握できていないことがわかる。



また、学校のテスト結果への信頼に関する調査では、「とても信頼する」と答えた日本の保護者は5割未満となり、11カ国中最下位であることが判明。



さらに、子どものテスト結果の把握実態について調査したところ、子どものテスト結果をよく知っていると回答した日本の保護者の割合は8割未満で、世界11カ国の中では下から2番目という結果。子どものテスト結果への関心や認識が、世界と比較すると低いことが改めて浮き彫りとなった。



② 子どもが勉強するために必要な要素は

「定期的な学力レベル評価」「身近な目標」「勉強したことへの褒め」が世界共通

保護者が考える、子どもがもっと勉強するために必要な要素では、11カ国全体でも日本でも、「定期的に学力レベルを評価した方が良い」「身近な目標を持つべきだ」「親が勉強したことを褒めるべきだ」の3つが上位に入った。子どもが勉強に励むために必要と考える要素は、世界共通であることがわかる。また日本の保護者は子どもの学力を把握していない中、子どもがもっと学習するために、潜在的には「評価」が大切と考えていることが伺える。

保護者が考える、子どもがもっと勉強するために必要なこと

11カ国全体

<b>1位</b> 親が勉強したことをほめるべきだ	<b>4位</b> 先生が勉強したことを褒めるべきだ
<b>2位</b> 身近な目標を持つべきだ	<b>5位</b> 自分の力で学習すべきだ
<b>3位</b> 定期的に学力レベルを評価した方が良い	<b>6位</b> 競争環境で学習を進めるべきだ
	<b>7位</b> パソコンやタブレットのソフト・アプリで勉強するべきだ

日本

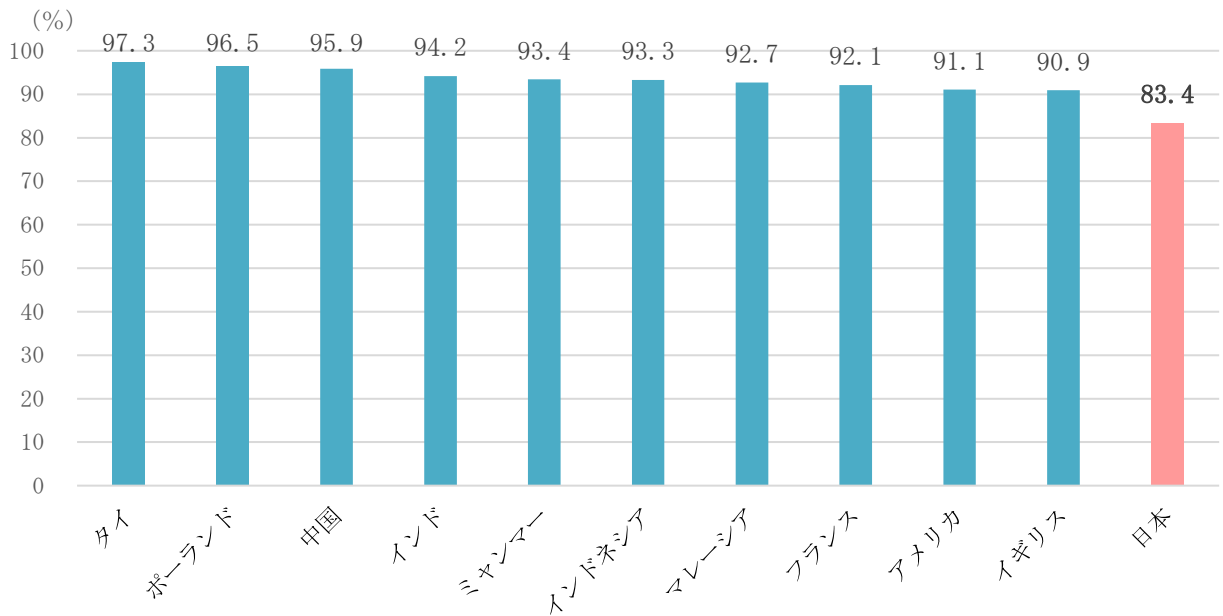
<b>1位</b> 身近な目標を持つべきだ	<b>4位</b> 先生が勉強したことを褒めるべきだ
<b>2位</b> 親が勉強したことをほめるべきだ	<b>5位</b> 自分の力で学習すべきだ
<b>3位</b> 定期的に学力レベルを評価した方が良い	<b>6位</b> 競争環境で学習を進めるべきだ
	<b>7位</b> パソコンやタブレットのソフト・アプリで勉強するべきだ

③ 日本の保護者が実際に「勉強したことを褒める」割合は11カ国中最下位

日本国内の学力上位者の保護者ほど、定期的な学力評価を重視

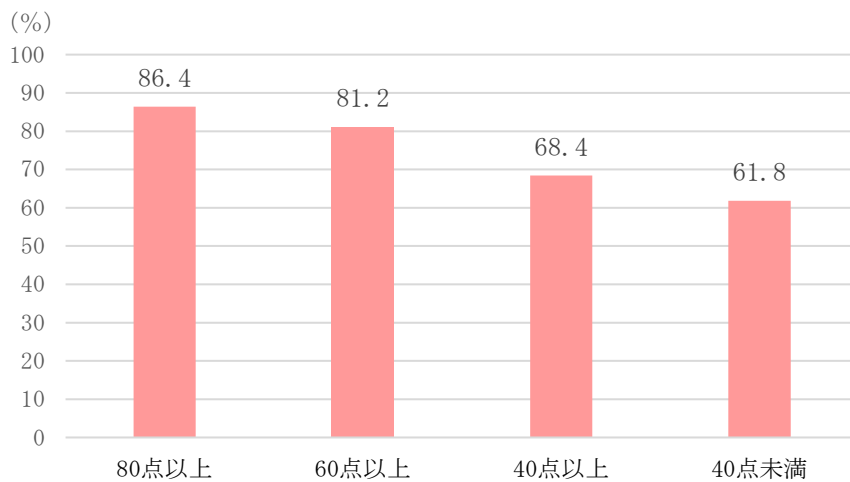
子どもがもっと勉強するために「親が勉強したことを褒めるべきだ」と考える日本の保護者は多い一方で、実際に「勉強したことを褒める」割合は11カ国中最下位。他国が9割以上に対して、日本の保護者は8割程度にとどまっていることが明らかに。

保護者が勉強したことを褒める割合



このように保護者の行動が伴っていない現状を踏まえると、子どもがもっと勉強するために必要な要素として、「目標を持つこと」や「定期的に学力レベルを評価すること」が重要になると考えられる。実際、学力テスト結果別に「定期的に学力レベルを評価した方が良い」と考える日本の保護者の割合を見ると、子どもの学力テストの点数が高いほど保護者が定期的な学力評価を重視している傾向が見える。

日本の保護者が、「定期的に学力レベルを評価した方が良い」と考える割合(学力テスト結果別)



### 【TOFAS (Test of Fundamental Academic Skills) 概要】

基礎学力を「評価」する国際基礎学力検定。正しく基礎学力を測ることを目的にしており、オンラインの検定のため誰でもどこでも受検が可能。第1回の3月21日(日)は受検料無料で、日本・アメリカを含む世界複数国での世界同時実施を予定。

公式Webサイト：<https://sprix.jp/tofas>

